

## 平成 29 年度 研究成果報告書

### Research Achievement Report FY2017

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語・日本文化講座・講師
氏名 Name	山泉 実
専門分野 Academic Field	言語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	1. NP-ハの層状節構造における位置 2. コピュラ文名詞句の解釈多様性を扱える認知語用論の構築 3. 逆隠喩 4. 潜伏極性疑問名詞 5. 隠喩と提喩の境界事例と言われているもの
1. 8月にRRG 2017(於東京大学駒場キャンパス)で“Where is the Japanese NP- <i>wa</i> in the LSC? From the Viewpoint of Left-Dislocation”と題して発表した。続けて、9月に言語学シュンポシオンで「NP- <i>wa</i> は LSC のどこにあるのか 2: LDP 説の根拠の批判的検討」と題して発表し、2つの発表をまとめる形で言語社会学会の学会誌 <i>EX ORIENTE</i> に“Reconsidering the Layered Structure of the Clause in Japanese: Focusing on the NP- <i>wa</i> and Left-dislocation”という論文を発表した。 2. 4月に「コピュラ文名詞句の解釈多様性を扱える認知語用論の構築」という課題名で科研費(研究課題/領域番号 17K17842)が採択され、研究を本格的に開始した。3月の言語学シュンポシオンにて「指示参照ファイルによる名詞句の認知意味論・認知語用論」と題し、初めてまとまった形で枠組を発表した。 3. 日本語用論学会の学会誌『語用論研究』に「佐藤信夫の「逆隠喩」をめぐって：関連性理論の語彙語用論の観点から」という論文を投稿し、査読の結果掲載された。 4. 3月の言語学シュンポシオンの発表「指示参照ファイルによる名詞句の認知意味論・認知語用論」においてこの枠組みの中に潜伏極性疑問名詞を位置づけた。 5. 「意味拡張における説明概念としてのシネクドキの役割とメタファーとの関係」という題の論文を専攻紀要『日本語・日本文化研究』に発表した。	